12/9 朝日

母子おにぎりでパーティー

現場から 2014衆院選 4

1面から続く

子どもの貧困は、とくに母子家庭で深刻だ。8割の母親が働いているものの、女性は非正社員として低賃金で働くことが多い。東京都豊島区の「夜の児童館」でも、母子家庭の利用が半数を占めている。

都内の母親(50)と小6の長女(12)が二人で暮らす家庭では、給料日前の月末になると、夕食の食卓に連日、おにぎりだけが数個並ぶことがある。

そういうとき、母親は「さあ、おにぎりパーティーの始まりよ」と長女にいう。「だって『おにぎりしかない』って言うと暗くなっちゃうでしょ」。具は何がいいかのリクエストも聞く。「おかかとみそ、塩の3種類しかないけどね」

母子家庭になったのは、長女が生まれてすぐだった。母親は専業主婦だったが、介護の仕事を始め、資格もとった。

週4日、病院で介護士としてパートで働き、収入は月12万~13万円。生活保護も一部受ける。生活費にあてられるのは月7万2千円。うち食費は2万円ほどだ。

モヤシだけの焼きそば、肉のかわりに12個で87円のウズラの卵が入ったカレー……。午後7時すぎに帰宅する母親が10分ほどで急いで支度し、一緒に食べる。

「育ちざかりなのに。虐待じゃないかと思うこともある」と母親は打ち明ける。

料金を滞納して止められないように、7月は電気、8月はガス、水道代は9月というように数カ月に1回順ぐりに払う。それでも払えないことがある。1年前のクリスマスには水道が止められてしまった。炊飯器の釜やペットボトルを持って母子で近くの公園へ行き、水をくんだ。

経済的な貧しさは、子どもたちが受けられる教育の問題につながり、「貧困の連鎖」を生む。

福岡県の公立高3年の男子生徒(18)は中学3年のときに母を亡くし、姉と生活保護で暮らす。すべり止めの私立を受けられず、志望校のランクを下げていまの高校に入った。母を失ったショックや学校への不満から、1~2年のころはあまり学校に行けなかった。

大学の夜間部に進みたいが、お金や学力など不安だらけだ。塾や予備校に通う余裕もない。「いま勉強して意味があるのかな、と考えてしまう」

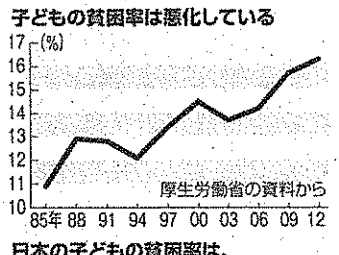
名古屋市に住む女性(20)はこの春、愛知県立の夜間定時制高校から県内の専門学校に入学した。

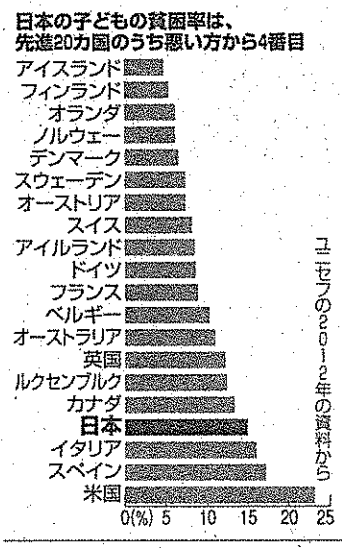
中学時代に両親が離婚した。母は恋人をつくって留守がちになり、祖父母宅に身を寄せた。大学進学を考え、喫茶店やライブ会場などのアルバイトを掛け持ちして働き、高校卒業までに100万円以上をためた。

昼に働いた後で学校に行き、深夜再び働いたこともある。入試に失敗し、専門学校に通いながら来春の大学編入試験を目指す。

女性の担任だった定時制高校の教師(60)は「定時制にはひとり親できょうだいが多く、生活保護を受けている生徒がたくさんいる。祖父母の代から3代続けて生活保護という子もいる。貧しい層の固定化が顕著になっている」と話す。

「夜の児童館」は、近所に住む人たちや学生がボランティアで支える＝東京都豊島区、井手さゆり撮影





貧困率 政治が解決を

子どもの貧困率はデータを取り始めた1985年以降、悪化が続いている。2012年には国民1人あたりの平均所得の半分（12年は122万円）にも満たない家庭で暮らす子どもたちの割合が、過去最悪の16・3%になった。

政府が子どもの貧困率を公表したのは、民主党政権になった直後の09年秋。安倍政権下で昨年、貧困の連鎖に歯止めをかける対策を国の責務とする「子どもの貧困対策法」が成立した。今年8月には、重点施策を示した「子供の貧困対策大綱」ができた。

これを大きな前進というのかどうか、評価はわかれる。大綱には子どもの貧困率をどれだけ削減するかの数値目標すら盛り込まれなかった。児童扶養手当の増額や返済のいらない奨学金の創設など有識者の検討会が求めた策も見送られた。

そもそも実態調査は遅れている。いまは家庭の所得を元に貧困率を出しているが、都道府県別や年齢別などの調査は進んでいない。これでは、子どもの年代に応じたきめ細やかな対策は難しい。

あしなが育英会など17団体が今回の衆院選を前に、政党にたずねたアンケートでは「子どもの貧困について多面的な実態調査をする」との項目に全党が「取り組む」と答えた。

子どもの貧困は、日本が直面する「格差」の問題でもある。より詳しい実態調査に加え、低賃金の非正社員が増える雇用の問題、教育への支援など対策は多岐にわたる。政治のリーダーシップが問われている。

（岡林佐和、山本奈朱香）